

科目名	生物基礎		1学年・必修	使用教科書	生物基礎 東京書籍		
			単位数：2単位	使用副教材	新課程 ニューサポート 新編生物基礎 東京書籍 ニューステージ 新生物図表 浜島書店		
学習目標	1 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解できる。 2 実験・観察に意欲的に探究し、科学的な見方・考え方を身につけることができる。 3 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高めることができる。						
学習方法	授業は全員で作っていくものです。自ら進んで課題に挑戦し、些細な疑問、質問、意見等は遠慮せずに発して下さい。ただし、私語は厳禁です。その日に習った内容に関しては、必ずその日のうちに教科書を一読し、プリントを用いて復習しましょう。中学校までに学習してきた内容もありますが、高校では内容がより深まりますので、一度の授業だけで定着や理解が深まることは難しいです。また、授業では基礎的・基本的な内容を扱いますので、より深く学習したい人は図説やワーク等を各自家庭学習に用いてください。 【授業に持参する物】 □教科書 □図表 □ワーク ※ 忘れ物は授業前に必ず伝えてください。 ※ 授業前には必ず必要な物を机上に準備し、座席に着席すること。						
学習評価	評価の観点		評価の観点の項目				
	I	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身につけている。				
	II	思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。				
他教科との関連性	該当する単元（教材）		関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）			
	生物の体内環境の維持		体育	自律神経やホルモンのはたらきについて学び、運動時により良いパフォーマンスを発揮するためには、どのような準備が必要になるかを考える。			
学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushireby 5.0	
前期	4	生物の多様性と共通性	6	生物には多様な種が存在するが、そこには共通の特徴もみられることから、生物とは何なのかということ学びます。	生物に共通する特徴を理解し、それについて説明することができるか、取り組みの様子から評価します。 細胞の観察を通して、顕微鏡を正しく使用できるかを取り組みの様子から評価します。	探究心	
	5	生物とエネルギー	8	生体内のエネルギーはどのようにして生み出され利用されているのか、またそれに関わる物質について学びます。	生体内の代謝について、そのメカニズムや関連する物質の構造、はたらきについて理解できているか、ワークシートから評価します。	学びに向かう姿勢	
	6	遺伝情報とDNA	8	DNAの構造やはたらきについて学びます。	DNAの構造やはたらきについて理解できているか、小テストの結果から評価します。	課題解決能力	
	7	遺伝情報とタンパク質	5	遺伝情報から生体が構成されていくメカニズムを学びます。	遺伝情報からタンパク質が合成されるまでの過程を理解できているかをワークシートから評価します。	思考・判断・表現力	
	8	体内環境と情報伝達	12	体内環境を維持する仕組みや関連する物質について学びます。日常生活における場面ごとの体の反応について考え、学習内容との関連を確認します。	刺激に対する体の反応と神経系の関連について、各神経の特徴を踏まえた上で考察することができるか、グループワークへの取り組み状況から評価します。	ひらめき力	
9	コミュニケーション能力						
後期	10	免疫のはたらき	14	体内に侵入する菌やウイルス等の異物に対し、体がどのような反応を起こすのかを学びます。また免疫機能の異常や身の回りの感染症などについても学習します。	免疫の種類、その機能について理解し説明できるかを小テストから評価します。免疫機能の応用や異常について理解できているか、ワークシートから評価します。	思考・判断・表現力	
	11					分析・判断力	
	12	植生と遷移	8	森林が形成されるまでの過程や森林形成に必要な条件を学びます。またどのような地域にどのような植生が形成されるかを学びます。	森林が形成させる条件やその過程について理解できているかを取り組みの様子から評価します。年降水量や年平均気温とバイオームの関係について理解できているか、小テストから評価します。	思考・判断・表現力	
	1					分析・判断力	
	2	生態系と生物の多様性	9	生態系における各生物の役割や、復元力について学び、身の回りの生態系を保全するために必要な取り組み等を学びます。	生態系の機能について理解できているか、ワークシートから評価します。身の回りの生態系に目を向け、その保全のために必要な取り組みを考察できるか、レポート提出をもって評価します。	当事者意識	
3	探究心						